

心奪われるような感動を胸に!

世界にはその土地でしか出会うことのできない
美しく、魅力的な情景があります。
日本では味わうことができない、
TVや映画の映像では満足できないものばかりです。

心奪われるような感動を体験してみませんか?

まるであなたが旅の主人公になったような・・・
特別な時間を過ごしていただくお手伝いを
私たちJTBは致しております。

JTB大阪第二事業部

〒541-0058 大阪市中央区南久宝寺町3-1-8 (MPR本町ビル7階)
TEL.06(6252)2711(代) FAX.06(6252)2790
担当:有野 良一

CONTENTS

- | | |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 1 インタビュー クアルテット・エクセルシオ (弦楽四重奏団) | 9 楽器工房探訪 vol.2 アキヤマフルート |
| 4 2022年度主催事業ご紹介 | 11 世界のアンサンブル事情 vol.2 閻杰 (中国琵琶奏者) |
| 5 フィギュアスケートとクラシック音楽 ~室内楽曲の逆襲!? | 13 世界の民族楽器 音の出し方(似た者同士) vol.2 |
| 7 室内楽あるある vol.2 梶川真歩 (アンサンブル・ミクスト) | 15 世界のコンクール ~シヨパン・コンクール/ポーランド |
| | 17 イラスト・コミック 続・音楽で楽しむ世界旅行 |



重ねてきたからこそその自由——
緻密の先へ翔ぶベテラン四重奏団

クアルテット・エクセルシオ インタビュー

取材・文 山野雄大 (音楽ライター)

QUARTET EXCELSIOR Interview

このアンサンブルにしか出せない色が、ある。日本では数少ない、
常設の弦楽四重奏団として堂々たるキャリアを重ねるクアルテット・エクセルシオ——
4人の錬磨がひとつに響くその多彩なプログラムにくわえて、豊かなもう一色、
ヴィオラの後藤彩子(元シューマン・カルテット)も参加する弦楽五重奏も愉しめるとは、稀なる贅沢!



日本室内楽振興財団・あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール共同主催
クアルテット・エクセルシオ with 後藤彩子

2022 2/12(土) 14:00開演 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

(出演)クアルテット・エクセルシオ(弦楽四重奏) 後藤彩子(ヴィオラ)

ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第2番 ト長調 op.18-2

シューベルト:弦楽四重奏曲 第12番 ハ短調 D703「断章」

望月京:Boids(2018) Boids again(2020)※世界初演 第10回大阪国際室内楽コンクール委嘱作

メンデルスゾーン:弦楽五重奏曲 第2番 変ロ長調 op.87

(チケット)全席指定

一般/¥4,000(友の会会員/¥3,600) 学生(25歳以下)/¥1,500(限定数・フェニックスホールのみのお取扱い)

(チケットご購入・お問合せ) ザ・フェニックスホール チケットセンター 06-6363-7999 (平日10:00~17:00 / 土日祝 休業)



公演情報はこちら



大友肇(チェロ)

ヴィオラが増えても、
風通しよく華やかに!

——今回の公演では、ゲストの後藤彩子さん
をお迎えして、メンデルスゾーンの弦楽五重
奏曲第2番変ロ長調(作品87)を聴かせてい
ただくのも楽しみです。これは、弦楽四重奏
にヴィオラをもう1本加えた私たちの五重
奏曲ですが……

大友肇(チェロ) このかたちの弦楽五重奏
ですと、当然ながらヴィオラの音色が常に
良く鳴っているわけで、料理にたとえると
へうま味への部分がかすこく濃厚になるん
です。

西野ゆか(第1ヴァイオリン) 弦楽五重奏で
は、チェロが2本になる作品もあるんです
が、その場合は響きの土台がふくよかにな
るんです。その上でヴァイオリンは気持ち
よく歌う感覚になるんです。それに対して、
今回のようにヴィオラが2本になる作品で
は、内声同士の間、その良い味を近く
感じながら演奏できますね。

吉田有紀子(ヴィオラ) 今回、後藤さんとは

初共演になるんですが、お人柄も穏やかで、
とても素敵なたったなんです。加わって
いただいたハーサルでも、全パートに対する
アンテナが立っていて。

西野 お人柄も音楽もとてもナチュラルで、
知らないかたが一人加わったという感覚が
ない。

吉田 今回は後藤さんに第1ヴィオラを
弾いていただきます。第2ヴィオラは曲中
でチェロと同じように、皆を支える仕事
が多いものですから、ゲストのかたには
第1ヴィオラで自由に演奏していただ
けませんか。

西野 はい。ベートーヴェンは特に中期以
降になると、4声の構築感が凄く出てくる
んですけど、メンデルスゾーンはどちら
かというと「メロディを主導して歌い続け
る」第1ヴァイオリンに比重がおかれるの
で、「バランスなど工夫しながらも、自然に
流れてゆくメロディラインも、自分が思う
ように表現できる感じはありますね。



西野ゆか(第1ヴァイオリン)



吉田有紀子(ヴィオラ)

——コンサートの最初でお聴きいただき、
ベートーヴェン(弦楽四重奏曲第2番ト長調)
とは、響きに感じられる重力、その質が違う
あたりもメンデルスゾーンを聴く面白さで
すね。

大友 彼は弦楽四重奏曲も6つ残していま
すが、ふだんベートーヴェンばかり演じてい
ると、メンデルスゾーンの楽譜を見たとき、
妙な隙間があるように感じて(笑)それが
彼らしいんだろうなあ。音の配置にも不
思議なところがあつて……

——風通しの良さを感じますよね。

大友 そうそう。ベートーヴェンのような
へすべてのパートがこうでしか有り得ない
という音楽ではなく、組み立てていくとひ
とつ余ってへえ、これ要るの?というパート
がある(笑)。

吉田 それ分かる!(笑)
大友 それがまたいいところなんですよね。
この弦楽五重奏曲第2番も、がしつとす
ぎないで、5人のバランスがいい感じでき
られてゆく、素晴らしい作品なんです。メン
デルスゾーンというと、四重奏曲より編成

新曲に魅せる、
ヴェテランの境地

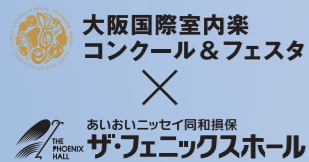
——前半には、国際的に活躍されている現
代作曲家、望月京さんの《Boids》《Boids
again》という、対になる2つの近作を披露し
ていただきます。細やかな各パートの自在
な重なり合い、そのさまざまな波紋を愉し
める作品かと愉しみにしています。

北見春菜(第2ヴァイオリン) 私たちはヘラ
ボ・エクセルシオという演奏会シリーズな
ども、現代作曲家の作品を取りあげるこ
とがあります。

吉田 演奏する機会が増えたことで、難し
い楽譜に免疫力がきました。



北見春菜(第2ヴァイオリン)



ザ・フェニックスホールに集う トップアンサンブルシリーズ2022-2023

室内楽の“今”を聴くトップアンサンブルシリーズ

日本室内楽振興財団主催公演2022-2023シーズンは、『トップアンサンブルシリーズ』と題し、世界で活躍する過去のコンクール&フェスタ入賞団体から4団体をご紹介します!今回登場するのは、第2回で優勝したヘンシェル・クアルテットを筆頭に、いずれの団体も大阪国際室内楽コンクール&フェスタで入賞後、世界を舞台に目覚ましい活躍を見せているトップランナー達だ。室内楽の“今”を、ザ・フェニックスホールで体感してほしい。



公演情報はこちら



受け継がれるヨーロッパの伝統 ヘンシェル・クアルテット <第2回コンクール第1部門 第1位> (弦楽四重奏、ドイツ)

メンデルスゾーン:弦楽四重奏曲第2番 イ短調 op.13
ドヴォルザーク:弦楽四重奏曲第12番 へ長調 op.96
シューベルト:弦楽四重奏曲第14番 二短調 D810「死と乙女」

2022 5/25(水) 19:00開演 全席指定 ¥5,000/ザ・フェニックスホール友の会 ¥4,500/学生¥1,500



グラミー賞が煌めく新時代の旗手 アタッカ・クアルテット <第7回コンクール第1部門 第1位> (弦楽四重奏、アメリカ)

ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第10番 変ホ長調 op.74
ポール・ウィアンコ:Benkei's Standing Death(弁慶の立ち往生)
キャロライン・ショウ:Entr'acte ラヴェル:弦楽四重奏曲 へ長調

2022 9/12(月) 19:00開演 全席指定 ¥5,000/ザ・フェニックスホール友の会 ¥4,500/学生¥1,500



日本の俊英たちが重ねあう甘美な響き アンサンブル・ミクスト <第7回コンクール第2部門 第3位> (木管五重奏、日本)

ミヨー:木管五重奏のための2つのスケッチ
ライヒャ:木管五重奏曲 op.91-3
モーツァルト:セレナード第12番 へ短調 K.388 ほか

2022 12/11(日) 15:00開演 全席指定 ¥4,500/ザ・フェニックスホール友の会 ¥4,050/学生¥1,500



深い歴史解釈に裏付けられたクリアサウンド ドーリック・クアルテット <第6回コンクール第1部門 第1位> (弦楽四重奏、イギリス)

ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第11番 へ短調 op.95「セリオーソ」
ハイドン:弦楽四重奏曲 二長調 op.50-6
ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第15番 イ短調 op.132

2023 2/26(日) 15:00開演 全席指定 ¥5,000/ザ・フェニックスホール友の会 ¥4,500/学生¥1,500

チケット発売 ザ・フェニックスホール友の会優先 2022年3月4日 / 一般 2022年3月8日 4回通し券 ¥17,000/ザ・フェニックスホール友の会 ¥15,000

チケットに関するお問合せ ザ・フェニックスホール チケットセンター 06-6363-7999 (平日10:00~17:00/土日祝 休業) お問合せ 公益財団法人日本室内楽振興財団 06-6947-2184

主催:公益財団法人日本室内楽振興財団 / あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール 後援:読売テレビ、読売新聞社



大阪国際室内楽 コンクール&フェスタ2023

開催決定!

2023.5/12(金)~5/18(木)

大阪 富山 三重

第1部門:弦楽四重奏
第2部門:ピアノ三重奏、ピアノ四重奏
フェスタ

応募に関する詳細は、2022年3月に発表予定です。



2019年7月27日、日本室内楽振興財団主催「弦楽四重奏の響宴」クアルテット・エクセルシオ

——最初の《Bois》は2018年の作品、それに続く2020年の新作《Bois again》は、同年に予定されていた第10回大阪国際室内楽コンクールのために委嘱されたが、コンクールが中止になってしまったため、今回が世界初演となります。

西野 現代曲には、各パートのタイミングが合わないように書かれた楽譜からどのようにつくってゆくのかわからないという難しさはありますが、逆にそこに個性が出ると思いますし、若いクアルテットが挑戦

していくことは大事だと思います。

吉田 私たちが大阪国際室内楽コンクールに出たとき「96年」も、三善晃先生の弦楽四重奏曲第3番『黒の星座』が課題曲になりましたし、あれも美しい曲でしたね。

西野 昔はリゲティの作品など、それぞれ1小節ずつ完璧を目指して練習していたし、それにやり甲斐も感じていました。最近では「演奏至難な楽譜を」全て正確に弾くことが、必ずしも作曲家の求めていることではない……と思うようになってきました。実際に作曲家のかたにそう言われたこともあるんです。そのあたりから、表現の仕方も変わってきたような気がします。

——特に今回の望月京さんの創られる音宇宙には、古典から現代まで幅広く手がけてこれたヴェテラン四重奏団ならではのアプローチこそが、音の感触や視界を、より明確に拓いてくださるかと思えます。とても愉しみにしつつ……この現代曲がおかれることで、その前後におかれた古典の作品も、その多彩をより深く味わっていただけるかと思えます。



吉田 エクセルシオは長年ベートーヴェンの作品を中心に演っているのですが、やはり今回も外せないということで第2番ト長調を、いい曲ですよ。

——この第2番には『挨拶』という愛称もあるくらいで、コンサートの始まりにもいいと思います。弦楽四重奏団の表現力をシビアに問われる曲でもありますね。

北見 シンプルだからこそ逆に難しい曲だと思います。

大友 細かいところを見る視点や、大きく俯瞰で見る視点など、いろいろな演りかたで初期作品を見直してゆくと、この第2番に対する見え方も変わってきたんです。

西野 ずっと弾いてきて、自分たちなりの（こうじゃないか）というものが見えてきたようにも思いますが、その上でこうしたベートーヴェンの初期作品を見直すと、和声といくキャラクターといい、シンプルなのに逆に難しいあたりも、より鮮明になってきた。

——そしてシューベルトの弦楽四重奏曲第12番、これは完成された第1楽章のみ残された『断章』といえ、とても素敵な名曲ですね。

北見 短いなかにも凝縮された作品ですね。また弾けるのが嬉しいです。

西野 シューベルトの音色のつくりかたは、他の作曲家と全然違います。昔はもっと器楽的に捉えて弾いていたんですが、歌曲をよく聴くようになってから、イメージも変わりました。弱音もそこまで演るか、というところを目指して弾くようになりました。

吉田 そのぶん内声も大変になってますが（笑）。メロディもとても繊細な美しさを

クアルテット・エクセルシオ

西野 ゆか(第1ヴァイオリン)、北見 春菜(第2ヴァイオリン)、吉田 有紀子(ヴィオラ)、大友 肇(チェロ)

「繊細優美な金銀細工のよう」(独フランクフルター・アルゲマイネ紙)と2016年ドイツデビューで称賛された、年間70公演以上を行う日本では数少ない常設の弦楽四重奏団。ベートーヴェンを軸にした『定期公演』、20世紀以降の現代作品に光をあてる『ラボ・エクセルシオ』、次世代の弦楽四重奏団との共演『クアルテット・ウィークエンド』などのシリーズを展開しつつ全国的に活動。また、室内楽の聴衆の輪を広げる活動を積極的に行い、海外公演も回を重ねている。1994年桐朋学園大学在学中に結成。96年第2回大阪国際室内楽コンクール弦楽四重奏部門第2位、第5回バオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏コンクール最高位、第19回新日鉄音楽賞「フレッシュアーティスト賞」、第16回ホテルオークラ音楽賞など受賞歴多数。2016年サントリーホール主催により2週間でベートーヴェンの弦楽四重奏全16曲チクルスを日本団体として初演奏。同年6月まで6年間「サントリーホール室内楽アカデミー」にてコーチング・ファカルティを務め、引き続き後進の指導にもあたっている。浦安音楽ホールレジデンシャル・アーティスト。

オフィシャルウェブサイト <http://www.quartet-excelsior.jp/>
フェイスブック <https://www.facebook.com/QuartetExcelsior/>

持つていて、へ紙一重の怖さみたいなところもある。それに内声の内声のつくりかた、音質など凄く意識してつくりたい。

——シューベルトの室内楽入門にも優れた逸品だと思えます。

大友 この曲も含めて、今回のプログラムはいろいろな良さをこ用意できたと思いますし、ぜひお楽しみいただければと思います。

ファイギュアスケートとクラシック音楽

室内楽曲の逆襲!?



ファイギュアスケートをきっかけにクラシック音楽に親しむ人は少なくない。銀盤を彩る名曲の系譜とは。

飯尾洋一(音楽ライター)

それはトリノ五輪の「誰も寝てはならぬ」から始まった

ファイギュアスケート競技に欠かせないのが音楽。スポーツでありながら芸術性も求められるという競技の特殊性もあって、ファイギュアスケートとクラシック音楽はもともと相性が良い。

だが、どの選手がどの曲を使うのかについて、大きく注目が集まる

鳥の湖」、サン＝サーンスの「死の舞踏」、ビゼーの「カルメン」、リストのハンガリー狂詩曲第2番や「ラカンパネツ」等々……。

こうして眺めてみると、ファイギュアスケートで人気の高い曲には一定の傾向があると思う。作曲された時代でいえば、19世紀の音楽、ロマン派の音楽に強く偏っている。曲調としては雄大でドラマティックな曲、あるいは甘美で抒情的な曲が多い。一聴して強い印象を残すキャッチーな要素も好まれるようだ。いくら作曲家として人気が高くてもモーツァルトやベートーヴェンの出番は少なく、ラフマニノフやショパン、チャイコフスキーには到底かなわない。

そして楽曲編成という点ではオーケストラ曲(協奏曲を含む)とピアノ独奏曲が目立つ。実は、かつてファイギュアスケートではボーカル入りの曲の使用が認められていなかった。荒川静香選手が使った「誰も寝てはならぬ」が、本来のテノール歌唱ではなく、ヴァイオリン独奏用に編曲されたバージョンだったのはこの規定があったから。ところが2014/15シーズンからルールが改正され、ボーカル入りの曲も使えるようになる。以来、オペラ・アリアやオルフの「カルミナ・ブラーナ」のような合唱曲も目立つように

ようになったのは2006年のトリノ五輪で荒川静香選手が金メダルを獲得したことがきっかけだったと思う。荒川選手のトレードマークともいえる優美な「イナバウアー」の映像とともに、ブッチーニの「誰も寝てはならぬ」がメディアでくりかえし流され、この曲が爆発的な人気を呼んだのだ。もちろん、「誰も寝てはならぬ」は以前からオペラ「トゥーランドット」の最大の聴きどころとして人気が高かった。しかしそれはあくまでオペラ好きの間で話、それがファイギュアスケートをきっかけに、みんなが知っている曲に格上げされたのだ。

以来、CDショップのクラシック音楽売り場には、ファイギュアスケートの名曲集といったコンピレーションアルバムがいくつも並ぶようになった。だから、2006年はクラシック音楽業界におけるファイギュアスケート元年といってもいい。ファイギュアスケートを題材としたコンピレーションはセールスも好調で、毎年各社が競って新商品を投入するようになる。ファイギュアスケートを通じてクラシック音楽に親しむ人々は想像以上に多かったのだ。

そして「誰も寝てはならぬ」に続くヒット曲を探せ!と言わんばかりに、有力選手たちが新シーズンにどの曲を使用するのかに注目が

なってきた。紀平梨花選手が使った「インターナショナル・エンゼル・オブ・ピース」という曲は、多種多様な宗教音楽を集めたオリジナルのアレンジだったが、その中には中世ドイツの神秘家ヒルデガルト・フォン・ビンゲンの楽曲も含まれていた。ボーカル曲が解禁されたおかげで、こういった古い声楽曲も使えるようになったわけだ。

室内楽曲の逆襲を期待! こんな曲を使ってほしい

と、「ここまで眺めてくるとはたと気づく。いったい室内楽曲はどこに行つたのか? そう、なぜかファイギュアスケートの選手たちは室内楽曲をあまり使ってくれない。もしかすると室内楽は地味で華やかなファイギュアには向かないという思い込みがあるのかもしれない。だが、それは誤解というもの。むしろファイギュアにとって室内楽は未開の沃野なのでは。

そこで! ずばり、この室内楽曲ならファイギュアスケートにぴったりだという楽曲を選んでみたい。前述したように、「この競技で求められる音楽の要素は、ロマンとドラマ、甘美さ、キャッチーであること。これらをキーワードに選んでみた。まずはブラームスの弦楽六重奏

集まることに。特に影響力が大きかったのが浅田真央選手。ハチャトゥリアンの「仮面舞踏会」のワルツ、ラフマニノフの前奏曲嬰ハ短調「鐘」、ショパンのノクターン第2番、リムスキー＝コルサコフの交響組曲「シエエラザード」、リストの「愛の夢」第3番、「恋は魔術師」より「火祭りの踊り」など、クラシックの名曲を効果的に使用してくれた。女子選手に比べると、男子選手はクラシック以外の音楽を使うケースが目立つのだが、それでも高橋大輔選手によるレオンカヴァッロの歌劇「道化師」より「衣裳をつける」、羽生結弦選手によるショパンのバラード第1番、町田樹選手によるストラヴィンスキーのバレエ音楽「火の鳥」などは、お茶の間におけるこれらの楽曲のポピュラリティを格段に高めてくれたはずである。

ファイギュアスケートでよく使われる曲には傾向がある!?

さて、「ここまで」に挙げた曲のほかに、ファイギュアスケートではどんな曲がよく使われているだろうか。ラヴェルの「ボレロ」、ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番、ロドリゴのアランフェス協奏曲、チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲や「白曲第1番より第2楽章。かつてルイ・マル監督の映画「恋人たち」で用いられて一世を風靡した曲だ。情熱的で悲劇の予感に満たされた曲調はどう考えてもファイギュアスケートに向いている。

続いて、ファイギュアの人気作曲家チャイコフスキーから、ピアノ三重奏曲「偉大な芸術家の思い出に」。ファイギュアではひとつの曲から複数部分を抜粋してつなげることがよくあるが、この曲であればメランコリックな第1楽章「悲歌的小品」でスタートして、明るく輝かしい第2楽章の最終変奏で終えるという劇的な演技構成が可能だ。

最後に挙げたいのはストラヴィンスキーの「兵士の物語」。少し尖ったムードを持たせたいときに適した選曲では。ド・ライでややコミカルな「兵士の行進曲」、楽しげな「小コンサート」、熱狂的な「悪魔の踊り」の3曲を使えば、さまざまな演技構成に対応できる。原曲の七重奏バージョンでも、ヴァイオリンとクラリネットとピアノによる三重奏バージョンでも可。

探せばまだまだファイギュアスケート向きの室内楽曲が見つかるのではないだろうか。お近くにファイギュアスケートの選手やコーチがいたら、ぜひ室内楽の魅力を伝えてほしい!





Q 演奏中のフルート奏者ならではのハプニング、
難しさにはどんなものがありますか？

A ハプニングは1番起きにくい楽器かもしれませんが。キーに水が溜まって音が乱れることも少ないですし、寒すぎて楽器が割れることもありません。華やかで目立ちますが、音が高いのでコールアングレやチェロのような、じっくり落ち着いた声で歌い込む、声に近い音域の音にとっても懂れます。苦手な事は、低音での刻み。聴こえにくく、クレが悪いです。

Q 音楽を聴いているとき、フルート奏者ならではの聴き方、
気になることはありますか？

A 木管五重奏をやっていると、だんだんフルート奏者らしくなくなってくるので、もしかしたらフルート奏者ではないかもしれませんが。そのためあくまで私が音楽を聴く場合ですが、フレージングや内声の歌い方、音色の変え方、ビート感、発音の種類等を聴きます。あと、最近では他の楽器のCDをよく聴きます。海外の合唱の上手なバロックの宗教曲や、ピアノ、弦楽器、雨の日はリュートを聴くのが好きです。

子供の頃からドアがパタンと閉じる音や破裂音が苦手なので、どの楽器でも、暴力的なタッチの音や、フォルテ、汚い音には耳を塞いでしまいます。

Q フルート奏者ならではの性格、
行動パターンなどはありますか？

A 神経質な人は少ないかもしれませんが。楽譜が黒く(細かく難しいパッセージが多い)、練習する時間がたくさん必要なので、あまり群れない、個人行動が得意な人が多いかもしれません。藝大時代も、フルート科はマイペースで個人行動、という印象が強かったですね。それから、私の周りでは、お酒の強い人が多いです(特にフランス帰りの人達は…!)

Q フルート奏者ならではの「あるある」があれば
お聞かせください。

A 楽器のお手入れあるあるは、他の楽器に比べて楽なことでしょうか？ 寒くて割れる、リードの準備などが有りません。そのかわり、リップクリームは朝から晩までギトギトに塗っています。唇は大事な「リード」なので…。

また、汗の質によるのか楽器が錆びやすい人がいて、シルバーのフルートが真っ黒になる人がいます。

Q アンサンブル・ミクストの特徴、魅力は？

A 木管五重奏は5つの発音体で音楽を奏でます。それぞれ素材が異なりますが、弦楽四重奏や金管五重奏のように、さらには一人のピアニストが奏でるように、一体感のあるアンサンブルを目標にしてきました。他の方々と木管五重奏をしてからミクストに戻ると、発音、ビート感、フレージングの方向性など、勝手にすーっと合う感覚を改めて感じます。

また、木管五重奏はバランスが非常に難しく、特にオーケストラの編曲ものを演奏する際は、充実した響きやオリジナル作品のサウンド感を作るのに、各パートが肉厚にしたり、逆に薄くしたりという工夫が必要です。そのあたりのコントロールができるのは、たくさん経験を積んできたからこそ感じます。

中田のファゴットの厚い響きとビート感は、オケの低弦のように音楽の大きな枠を作ってくれます。ホルンは大きすぎると五重奏を飲み込んでしまいますが、嵯峨の絶妙な音の太さと音量コントロール、艶のある美音は、ベースに回ったり内声やリズム打ちをしながら、編曲の薄い箇所にも自然と肉付けをしてくれます。

練習ではまず伴奏だけで音を出し、和声的な進行、ビート感やリズム感を味わい、固めてからメロディを乗せる。そんな音楽作りをすることがよくあります。

Q 室内楽におけるフルート奏者の役割、
とくにミクストにおける役割は？

A 機動性の高い楽器なので、メロディ、それも音数が多く速いパッセージを担当することが多いです。編曲ものではヴァイオリンの声部を担当することにもなります。ザッツを出したりコンマスのような役割をすることも多いかもしれません。しかし木管五重奏では、ソロに比べ、内声に回ったり低音で支えたりさまざまな役割を担うので、いろいろな仕事が勉強できて楽しいです。

Makoto Ensemble mixt
Kajiki (Flute)



アンサンブル・ミクスト
梶川真歩さん (フルート)

Profile

アンサンブル・ミクスト

東京藝術大学の学生により2003年に結成。2011年、第7回大阪国際室内楽コンクール管楽部門第3位受賞。(同部門における日本人団体の史上最高位)。同年津田ホールにてデビューコンサートを開催し、好評を博す。2012年度、ヤマハ音楽支援制度・音楽活動支援対象に認定。(財)地域創造アウトリーチフォーラム事業に参加。2014年第二回目演奏会にて酒井健治氏への委嘱作品《Mixtures》を初演。同年63回ミュンヘン国際音楽コンクール木管五重奏部門出場。2016年デビューアルバム《ミクスト・ノート〜木管五重奏曲集〜》をリリース。2018年、NHK-FM「リサイタルノヴァ」に出演。日本各地でコンサートを開催するほか、小中学校でのアウトリーチ活動(音楽鑑賞会)、スタジオ録音等幅広く活動している。モーツァルトの作品を木管五重奏用にアレンジして収録した最新CD《ファンタジー》もナミレコードより好評発売中。

<http://mixt.conmoto.jp>

室内楽奏者
Vol.2

室内楽に登場するさまざまな楽器の奏者には、その楽器ならではのキャラクター、アンサンブル内での役割、よく起きる出来事がある！
演奏家が、そんな「室内楽あるある」エピソードをご紹介します！

アンサンブル・ミクストは2022年12月11日の公演に出演！
詳細はP.4をご覧ください。



フルート: 梶川真歩
ホルン: 嵯峨都恵
オーボエ: 本多啓佑
ファゴット: 中田小弥香
クラリネット: 尾上昌弘

第7回コンクール第2部門
第3位



Akiyama Flutes

株式会社アキヤマフルート 東京都練馬区大泉町3丁目36-4
https://www.akiyamaflutes.co.jp/



アキヤマフルートの秋山です。

12月某日、事務所のまるこやなぎは、東京・練馬区の住宅街にあるフルート工房アキヤマフルートへ！
現代のフルートの多くは金属製なので、フルートは工場で製造されているイメージ。
でも、秋山さんはハンドメイドで、それも一人で製作されていると聞きつけて「取材させてください！」と直談判し、東京まで訪ねたのだ。
フルート製作者で工房を主宰している秋山好輝さんだ。さあ、深淵なるフルートの世界へ、いざ！

こだわりの手巻き管 キツカケは1通の差出人不明の手紙

秋山さんは元々、大手フルートメーカーで技術者として働いていて、1997年に独立して現在の工房を立ち上げた。当時は、既に筒状に加工された管から作る普通のフルートを作っていたという。現在は、板状の金属を手で丸めて加工する「手巻き管」のフルートを作っている。

まるこ 今の手巻き管を作り始めるきっかけは…？
秋山さん 2000年に差出人不明の手紙が届いたんです。『ルイ・ロットの技術を

銀食器から作る唯一無二のフルート

秋山さんの作るフルートは、銀、それも銀食器や銀盆を材料として使っている。元々は、普通の銀も使っていたようだが…
秋山さん ルイ・ロット*のフルートを再現する研究をしていました。でも、どうしても近づけない部分があった。そんな時、たまたま銀食器をテーマにした展覧会に行き、ルイ・ロットと同時代の19世紀の銀食器を使って楽器を作ろう、と思いつきました。

あなたで工房で継承しませんか」という手紙、その後に『手紙は読んでくれましたか？』という…最初は信じられませんでした。が、フランスルイロット工房の最後の職人さんからの託された思いを伝えようとして送られてきた手紙でした。もともと重要なことは「巻き管」で作ること、とも書いてありました。しかし手紙の返信先が判らない。でも、そこまで言ってくれる人がいるならと奮起して、ルイ・ロットと同じ手巻き管フルートを作ろうと、今の道へ



『今までで最高の銀盆』最後の作品のために取って置いてあるという。

もらっていました。銀食器のフルートでは『非常に近い音がする』と。そして銀盆を伸ばしたフルートの音を出すと、『これだよ、これ！』と言いつてもう一つが出来ました。

19世紀の良質な銀食器、特に銀盆は入手するのが難しいんです。いまここにある銀盆写真参照以上に良いものは、まだ出会えていない。これをフルートに加工する時は、

フルート製作の要は、管

やなぎ フルード製作の要はなんでしょう？
秋山さん 私は管がすべてだと考えています。

現在、国内で製造されているフルートのほとんどは、シームレス管という継ぎ目のない管から作られている。一方、秋山さんは銀食器・銀盆を加工して一枚の板状になった銀を、手作業で切り抜き、丸め、そしてロウを付け筒状にする。数えきれないくらい叩いたり、こすったりすることで管になつていく。これが「手巻き管」だ。

秋山さん 内部には独自の「ひずみをつけています。これは手作業でなければできないのです。これが独特の豊かな響きを生み出すのです。これが独特の豊かな響きを生み出すのです。

弟子募集!!!

秋山さん自身が研究を重ねて生み出した手巻き管フルートの技術は、後世に引き継いでいきたいという。
秋山さん 手巻き管はとても体力がいるんです。そして根気強さも。今はスペインと韓国に2人の弟子がいます。ぜひ我こそは！と思う方、ご連絡ください！
来たれ、次世代の匠!!!秋山さん、お忙しいところありがとうございました！

お値段が…

この日は完成しているフルートも2本見せていただいた。
やなぎ 秋山さんのフルートは、おいくらくらいで作っていただけるのでしょうか？
秋山さん 銀食器から作ったものは約150万円(税抜き)から、銀盆から作ったものは約260万円(税抜き)からです。
製作には1本あたり2か月程度かかり、現在納期は約半年とのこと。製作の方法や期間を考えると、決して高いとは言えないのかもしれない。憧れのオーダーメイド、是非あなたもいかがですか？



銀食器から作った銀盆を「はさみで切る」
丸める
ロウ付け
やすり掛け



世界の音楽において、息のあったアンサンブルはどんなふうにも生み出されるのか。スペシャリストに聞く!



第5回大阪国際室内楽フェスタ銀賞受賞 デュオ・パピ



Profile

中国大連市生まれ。7歳から琵琶を始める。12歳の時、ジュニア民族楽器コンクールで優勝。瀋陽音楽大学在学中に民族楽器コンクールで受賞。卒業後、遼寧省歌舞団で琵琶ソリストとして活躍。来日後、大阪教育大学大学院修士課程修了。三宅一生氏のファッションショーで東京とパリで演奏。中国でコマーシャルに出演。エンキコンサート「弦奏紀行」シリーズの他、「文化庁 舞台芸術国際フェスティバル」で大阪フィルハーモニー交響楽団と共演する。関西フィルハーモニー、金沢アンサンブル、中国のオーケストラとも共演。読売新聞社主催正倉院フォーラム、中国大連で開催されたダボス会議でも演奏する。第5回大阪国際室内楽フェスタで銀賞受賞。CDアルバムを7枚リリース。



〈中国琵琶奏者〉 閻杰(エンキ)さん

中国の大連で生まれた閻杰さんは、7歳で琵琶をはじめ、中国の音楽大学で学んだのち、大阪教育大学大学院を修了、現在は日本を拠点に演奏活動を行う。日本や西洋の音楽と融合させた幅広いレパートリーに取り組み、また中国琵琶の演奏技法の革新にも貢献。第5回大阪国際室内楽フェスタでは、ピアノとのデュオによるデュオ・パピで銀賞を受賞した。そんな閻杰さんに、中国琵琶の魅力、アンサンブルのおもしろさについて伺った。

聞き手 高坂はる香(音楽ライター)



まずは自分が音楽に感動する

—中国琵琶とはどんな歴史を持つ、どのような楽器ですか？

琵琶はとても歴史の古い撥弦楽器です。唐の時代までは、横置きするものも含め、さまざまな撥弦楽器を琵琶(ピーパ)と呼んでいました。しかしそれではわかりにくいので、ボディが洋梨の形のものだけを琵琶と呼ぶようになりました。

楽器には、4本の弦と31のフレットがあり、3オクターヴ半の音域を出すことができます。日本の琵琶はバチではじきながら歌いますが、中国琵琶は付け爪のようなも

のをつけた指で弦をはじき、楽器演奏のみというのがスタンダードです。

撥弦楽器なのでリズムの表現が得意ですが、10本の指全てで奏できるトレモロでは、長い音を表現できません。中国琵琶の基礎を勉強するにあたってもっとも時間がかかるのが、この5本指のトレモロです。

—音楽表現で最も大切にしていることは？

例えば、日本の琵琶には歌による物語の魅力があります。私は中国琵琶で「月の砂漠や「荒城の月」など日本の歌も演奏しますが、楽器だけでその魅力を十分に伝えるために、その音楽を自分が先に理

解して、感動することを大切にしています。

—閻杰さんの音にはパワーがあり、アンサンブルの中でも存在感があります。あのような音を鳴らす秘訣は？

よく演奏を聴いてくださった方に、あのパワーはどこから出てくるのですか、腱鞘炎にならないのですか、と問われます(笑)。私はもともと速い表現やパワーのある表現が得意ですけれど、やっぱりとにかく練習が大事ですね。逆に、繊細なリズムやゆったりとした音楽を演奏する場面では、心の中に美しう歌う気持ちを表現できるように工夫しています。

良いアンサンブルに大切なのは、同じ気持ちを共有すること

—中国の民族音楽における中国琵琶のアンサンブルには、どんなものがありますか？

二胡との二重奏、笛の加わった三重奏などいろいろあります。民族舞踊の伴奏することもあります。

中国の音楽大学卒業後、2年間(国立遼寧省歌舞団)で活動しましたが、そこでは40人、50人で演奏することもありました。スコアがあるのは西洋のオーケストラと一緒ですが、楽譜は数字で書かれていて、1から7がそれぞれドレミファソラシを意味します。

日本で演奏するようになって思ったのは、アンサンブルのとき、中国の民族楽器奏者は、体をかなり動かすことで呼吸を合わせているようだということ。少し抑えたほうがいいかなと思ったこともありましたが、今は自分らしく演奏するのがいいと思っています(笑)。

—デュオ・パピはピアノとのデュオですが、ピアノという西洋の鍵盤楽器と演奏するおもしろさ、むずかしさはありますか？



とてもむずかしかったです。コンクール前にはスタジオを借りて1日8時間練習し、家でも練習していたら、電車に乗っていてもむずかしい旋律が頭から消えない状態でした(笑)。

私が作曲した「山河の風」も演奏することができ、みなさんから良かったといっていただけで、嬉しかったです。4部構成の3部に、ジャズの要素を取り入れた楽曲です。ピアノと琵琶がかわるがわる前に立つ、その切り替えが難しく、実際に演奏してみるとしっくりこなくて楽譜を書き換える場面もありました。

日本に来てから、中国や日本の音楽、さらにはジャズやラテン音楽も演奏するようになりました。最初はできないと思いましたが、少しずつ感覚をつかめるようになりました。そしてどんな楽器でもジャンルを超えた演奏をしていくことで表現力が増していくものなのだと思います。

—良いアンサンブルのために大切なことはなんでしょうか？

練習している間に、同じ気持ちが生まれることです。音楽は目に見えませんが、想像する部分が大きく、理解が違ってしまうかもしれません。作品に対して近い気持ちを持つた上で、納得できるところを見つめる必要があります。そして演奏中は、目で会話することで、口で話すことなしにお互いの気持ちを理解します。

そのためには、合わせの練習をするとき、楽譜にメモをとっておくことも大事ですね。その時に軽く理解したことを、自分で練習しながら自然となじませていく。本番では緊張しますから、それを見越してたくさんさんの努力と練習を重ねておくことが必要です。

そして本番で良い緊張を持って演奏するために、舞台上に歩踏み出したときから気持ちを振り絞ります。自信を持ち、自分で自分をほめることも大切です。



音の出し方

似た者同士



前回紹介した「叩く」楽器に次いで人類が手にしたのは「弾く」楽器だったかもしれない。エジプト古王国時代の墓石のレリーフ(飾り絵)には、共鳴胴を持つ弦楽器が描かれている。現代に続くその楽器たちの姿を追ってみた。

片桐卓也(音楽ライター)



装飾も美しい、かつて卵型のボディを持つ

ウード oud

現代のギターのご先祖様はどこにいるのだろうか？ そんな疑問をたどって行くと、まずルネサンス期に活躍したリュートという弦楽器に出会い、さらにその先を探っていくとウードという弦楽器に出会うことになる。メソポタミア文明の遺跡からは5000年以上前の印章に描かれたウードが発見されたというから、相当古くから、この琵琶型のボディを持つ楽器が演奏されていたことが分かる。現在ではトルコ、シリア、イラン(ペルシャ)、イラク、北アフリカのモロッコなどアラブ圏に広く分布する楽器で、プレクトラム(ピック)を使って、弾いて演奏する。

アイリッシュ・ハープ Irish Harp

古代ローマの皇帝ネロは竖琴(リラ)を演奏しながら大観衆の前で歌うのが趣味だったそうだが、古代エジプトから古代ギリシャに伝わり、ローマでも発達したそのリラは現在のハープの原型とも言える楽器だ。それはいつしかヨーロッパにも伝わり、アイルランドでは12世紀頃から使われていたようだ。小型で、持ち運びも比較的しやすいことからアイルランド音楽、より広範囲に広がるケルト音楽では欠かせない楽器となっている。また現在では、ハープを習いたい子供たちが、まず小型のアイリッシュ・ハープを習うという学習法を取ることもある。



狩人の弓から発明されたとも言われる楽器

チャランゴ Charango

南米アンデス地方の伝統的な音楽はフォルクローレと呼ばれるが、そのフォルクローレ音楽の音色に欠かせないのがこのチャランゴだろう。スペインの植民が進む中、ギターの前身の楽器であるピウエラが南米に持ち込まれ、それがその土地で発展してきた弦楽器と考えられている。ほとんどはマンドリンのような木製ボディだが、ボディの素材にアルマジロ(堅い皮を持つ被甲目の動物)の甲羅を使っている物もあり、観た目のインパクトがある。小さい楽器なので、アンサンブルでは高音担当。他のギター型弦楽器であるロンロコなどと一緒に使われる。



アンデス山脈の住民で思わせない音

口琴(ムックリ) Jew's Harp (Mukkuri)

木や竹、そして近代では金属で作られたボディ部分を口の中にくわえ、そのボディの先端に付いた糸などを弾くことで音を出し、口腔の中で共鳴させるのが口琴(こうきん)という楽器。普段はあまり目にする事が無いかもしれないが、世界的に分布している楽器で、それぞれの民族で呼び名が違うのも興味深い。日本ではアイヌ民族が使うムックリ(竹製)がよく知られているが、映画「ゴジラ」の音楽で有名な伊福部昭(北海道生まれ)も子供時代にそのムックリに音に魅せられた。自分の身体を共鳴胴に使うという楽器は他にはないかもしれない。



豊かな倍音や素朴なメロディが特色

チェンバロ Cembalo

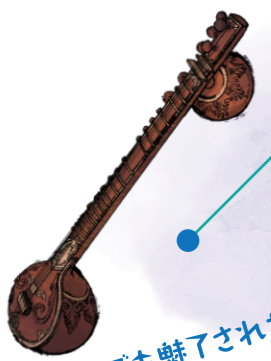
鍵盤楽器と言えばピアノが代表格だが、バロック音楽に再び光が当てられている近年では、チェンバロを聴く機会もかなり多くなって来た。15世紀頃に発明されたようで、ルネサンス期、バロック期に活躍した。ピアノと違う点は、ピアノが「打弦楽器」であるのに対しチェンバロは「鍵盤撥弦楽器」、つまり鍵盤を叩くとジャックと呼ばれる板が持ち上がり、プレクトラム(爪)が弦を弾いて音を出すという点にある。そのため音量は小さめだが、とても繊細な音を出すことができるし、レジスター(ストップとも)を使って、より大きな音を出すことも可能だ。



繊細、でも大胆。多彩な音を持つ鍵盤楽器

シタール Sitar

インド伝統音楽の中で使われていた弦楽器だが、1960年代以降、インド文化に影響を受けたジャズやロックのアーティストたちがその音楽の中に取り入れたことによって、世界的な脚光を浴びた楽器がシタールである。起源は13世紀頃と言われ、長い歴史を持つ。基本的には19絃だが、特徴的なのはその棹の部分で、ご覧の通りかなり長い。そこにフレットが取り付けられていて、実際に演奏されるのはそのフレット上の7絃。他は共鳴絃となる。独特のチョーキング奏法を採用し、いわゆる金属的な唸る音が異世界に誘ってくれるような感覚をもたらす。



ビートルズも魅了された宇宙的な音



シルクロードの果てにたどり着いた弦楽器

薩摩琵琶 Satsuma Biwa

琵琶はその起源が古代ペルシャと言われ、インド、中国に伝わり、さらに日本には7~8世紀に伝わったとされる。正倉院には伝来した五弦琵琶が保存されている。

日本ではまた各地で独特の発展の仕方をしたので、薩摩地方では、盲目の僧が琵琶を奏でながら歌うというスタイルを取っており、琵琶の奏法も独自のものとなって発展した。それに使われる琵琶は薩摩琵琶と言って区別される。絃は4本で、扇子型の大きなバチを使って演奏する。明治維新によって全国に広まったとされる。さらに第2次大戦後には楽器も改良され、現代音楽の世界でも活躍している。

箏(中国) Guzheng (China)

長方形の木の板に何本かの弦を張り、それを指で弾く弦楽器は中国では古くから使われて来た。その中でも、紀元前の秦の時代に作られたと考えられるのが「箏」である。弦の下に駒(コマ)を入れて音の上下を整え、メロディも和声も出せる。当時は12絃などが主流だったが、現在の中国で使われている箏は銅線を使った21絃など、多様な種類があり、指に爪(義甲)を着けて演奏する。これが朝鮮半島、日本などに伝わり、日本では現在の箏の原型となった。これとは別に日本古来の「和琴(わごん)」という似た楽器もあるが、起源は違っているので注意しよう。



あの始皇帝もその響を聴いたがも?

振り返ると、様々な種類の絃が使われて来た コラム

一口に弦(絃)楽器というが、その絃に使われて来た素材はそれぞれの楽器の生まれた場所を暗示するようなどころがあつて面白い。古くは主に絹糸をあわせて撚ったものが多く、ヨーロッパでは現在でも「ガット絃」と言われる羊の腸を乾燥させて撚ったものを弦楽器に使っていた。時代が進むに連れ、特に現代では金属の絃、ナイロンの絃などを使うようになり、弦楽器の音色も音量も変化した。そこで、古い時代の音楽を演奏する時には、作曲された時代に使われていた絃に近いものを選んで楽器に張り、演奏するという試みも行われている。



シヨパン国際ピアノコンクール

シヨパンの故郷、ポーランドのワルシャワで開催される、シヨパン国際ピアノコンクール。新型コロナウイルスの影響による1年の延期の末、去る2021年10月に開催された第18回は、日本人の活躍もあって大いに注目を集めた。ポーランドの国家事業として開催される世界最高峰の登竜門についてご紹介！

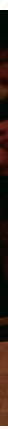
高坂はる香(音楽ライター)



シヨパン国際ピアノコンクールの会場、ワルシャワフィルハーモニーホール。ファイナル開催中の会場の様子(筆者撮影)

21世紀の今も変わらぬシヨパンコンクールへの想い

シヨパン国際ピアノコンクールが創設されたのは、1927年のこと。以後、第二次世界大戦中の中止を除き、基本的に5年に1度開催、現在も続く最も古い音楽コンクールとして、数々のピアニストを世に送り出してきた。過去の優勝者には、第1回のレフ・オポリン(1927年)をはじめ、マウリツィオ・ポリニ(1960年)、マルタ・アルゲリッチ(1965年)、クリスチヤン・ツイメルマン(1975年)、ダン・タイソン(1980年)、スタニスラフ・ブーニン(1985年)、そして近年ではラファウ・ブレハッチ(2005年)やチョン・ソジン(2015年)など、錚々たる顔ぶれが揃う。日本人からも、中村絃子(1965年)第4位をはじめ、内田光子(1970年)第2位、小山実稚恵(1985年)第4位、横山幸雄(1995年)第3位などが入賞。先の第18回では、第4位に小林愛実、さらに51年ぶりの日本人最高位タイである第2位に反田恭平が入賞したことで、日本のメディアでも大きく取り上げられた。古くからシヨパン国際ピアノコンクール



© Wojciech Grzedzinski/Darek Golik (NIFC) 優勝したブルース・リウ

受けることなく、コンクールは祝祭的なムードの中で無事に開催された。

個性鮮やか、日本人の活躍

改めて、シヨパン国際ピアノコンクールの概要をご紹介します。

もちろん課題曲は全てシヨパン。一人の作曲家だけを課題とするコンクールはめずらしいが、これは、生涯で書き上げた作品のほとんどがピアノ曲であるシヨパンだからこそ可能なことだ。また優勝者には、単に優れたピアニストというだけでなく、卓越したシヨパン弾きであることが求められる。正しいシヨパンのスタイルを理解した演奏—楽譜を正しく読み、研究すること。シヨパンの表現に必要な歌を表現すること。周辺国に支配され続けたポーランドの歴史を理解していること。そして、20歳で祖国を去り、そのまま39歳で病に倒れたシヨパンの望郷の念に寄り添っていること—などが理想とされてきた。

輝かしい音楽性の持ち主、ブルース・リウが優勝!

とはいえやはり、シヨパン国際ピアノコンクールで優勝するというには、格別の重みと意味がある。優勝者には瞬く間にたくさんのコンサートのオファーが入るほか、コンクールのライヴ音源は、名門ドイチュ・グラモフォンからCDリリースされる。

今回そんな優勝の座に輝いたのは、中国系カナダ人で、聴衆を魅了する天性の音楽センスの持ち主であるブルース・リウ。彼は自らを「明るい性格で、シヨパンとは正反対」としながら、自分なりにシヨパンに向き合い、「私の性格で、今もつとも確信をもてる表現をした」と話す。その力強く前向きな

第18回シヨパン国際ピアノコンクールは、2021年10月2日〜23日に開催された。応募は500を超え、2021年7月にワルシャワ現地で行われた予備予選を通過した87名が、10月の本大会に参加することとなった。

今回、コロナ禍による配信コンサートの一般化に加えて、もともと活躍しているピアニストがエントリーしていることもあり、予備予選の段階から、コンクールの配信が大いに注目されていた。前述の入賞者、反田恭平や小林愛実が人気だったのはもちろん、YouTubeとして活躍する「かていん」こと角野隼斗などは、セミファイナリストながら優勝者をしのぐ再生回数を記録した。

こうしたネット視聴の広がりにより、結果にかかわらず、若いピアニストが世界中にファンを持てるようになったのは、近年のコンクールに見られる大きな変化といえる。

シヨパンは、聴くものにエネルギーを与える。審査員勢からも、シヨパンのスタイルに沿うかどうかという次元を超えた圧倒的な才能が評価されたようだ。

ポーランドではこうした優勝者だけでなく、個人的に気に入った参加者を継続的に招いてコンサートをするというすばらしい土壌があり、これを期に度々ポーランドに招かれるようになるピアニストも多い。サロンコンサート文化があることに加えて、それぞれのポーランド人が、自分なりのシヨパン弾きの理想を胸に抱いているのも大きいだろう。

国家事業として華やかに開催されるシヨパン国際ピアノコンクールは、多くの意味で、若い演奏家にとってチャンスを掴むためのステージとなっている。



© Wojciech Grzedzinski/Darek Golik (NIFC)

第2位の反田恭平さん

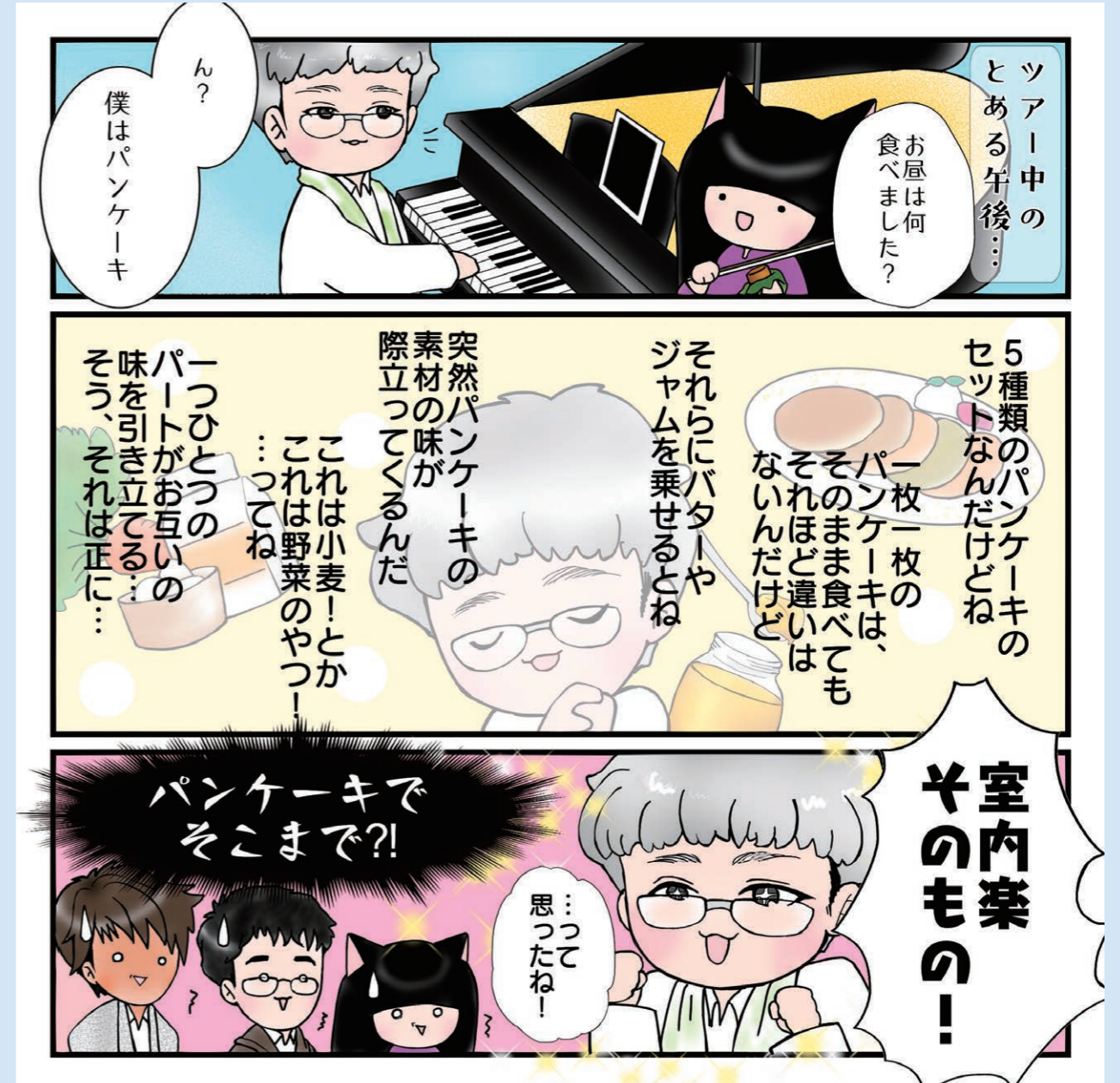


© Wojciech Grzedzinski/Darek Golik (NIFC)

第4位的小林愛実さん

作・絵 徳永慶子

ケイコさん、昨年に引き続きグランプリ・コンサート代替公演に登場！
日本全国6か所を巡ったコンサート・ツアーの道中では、
色々な面白いことがあったようですよ…！



グランプリ・コンサート
代替公演
続・音楽で楽しむ
世界旅行
2021.11.1(月)~12(金)

新型コロナウイルス感染症流行の影響により、第10回大阪国際室内楽コンクール&フェスタは、当初予定の2020年、延期開催であった2021年も開催が叶いませんでした。そのため毎年開催しております「グランプリ・コンサート」が昨年に続き中止に。
それでも芸術文化の灯を絶やしてはいけない！そんな思いから過去の優勝団体のメンバーであった元アタッカ・カルテット徳永慶子さんの協力のもと、皆様に日本にいながら音楽に乗って「世界旅行」を楽しんで頂けるようコンサートを企画いたしました。



出演:徳永慶子(ヴァイオリン)
芝村崇(チェロ)、小田裕之(ピアノ)



11月7日(日) 熊本
益城町文化会館



11月12日(金) 鳥取
鳥取市民会館 大ホール



11月10日(水) 富山県
高岡文化ホール 大ホール



11月8日(月) 大阪
住友生命いずみホール



11月1日(月) 静岡
沼津市民文化センター 大ホール



11月5日(金) 宮崎
小林市文化会館 小ホール

■ 2022(令和4)年度 助成金募集について

2022(令和4)年度の助成金交付事業の募集は2021(令和3)年10月31日(日)をもって締め切らせていただきました。申請のあったものについては2022(令和4)年2月に開催予定の選考委員会で審議致します。なお2023(令和5)年度の助成金募集については2022(令和4)年秋に実施する予定です。お問い合わせ:公益財団法人 日本室内楽振興財団 電話 06-6947-2183 HP <http://www.jcmf.or.jp>



公益財団法人 日本室内楽振興財団 支援企業

- | | | | | |
|----------------------|---|---|---|---|
| 大阪ガス株式会社
関西電力株式会社 | 野村證券株式会社
アサヒビール株式会社
サンリーホールディングス株式会社
ハウス食品グループ本社株式会社 | 株式会社日建設計
株式会社大林組
鹿島建設株式会社
株式会社きんでん
株式会社鴻池組
清水建設株式会社
大成建設株式会社
大和ハウス工業株式会社
株式会社竹中工務店
非破壊検査株式会社 | 大塚製菓株式会社
住友化学株式会社
積水化学工業株式会社
武田薬品工業株式会社
日本ペイント株式会社
近畿日本鉄道株式会社
京阪電気鉄道株式会社
南海電気鉄道株式会社
西日本旅客鉄道株式会社
阪急電鉄株式会社
阪神電気鉄道株式会社 | 株式会社JTB
株式会社電通
株式会社ニュー・オータニ
KDDI株式会社
西日本電信電話株式会社
株式会社読売新聞大阪本社
株式会社読売新聞東京本社
日本テレビ放送網株式会社
読売テレビ放送株式会社
(関連業種別 五十音順) |
|----------------------|---|---|---|---|
- 奏メンバーズ”募集！”**

お手元に「奏」をはじめとした日本室内楽振興財団の情報が届く「奏メンバーズ」募集！登録・配送料は無料です。
お申し込みは、日本室内楽振興財団ウェブサイトから！ <http://www.jcmf.or.jp>

楽屋ばなし 今回の続・世界旅行。
ウラのテーマは人だった!?

楽しかったツアー！
終わっちゃいましたね…
そやねえ。
ツアーで印象的だった事ある？
うーん、やっぱり「人」かなあ…
という？
各会場のスタッフの皆さんがとても親切で、演奏はすこくしやすかったです！
です！ただ、初めて行く場所もあったので、お客さんの反応がとても不安だったんです。
なるほど、特に鳥取は独特と言っか…
そう！
演奏中はあまり反応が無いように感じて、恐る恐るサイン会にいったら…
大盛り上がり(笑)
あと、ピアノの小田さんに関しては上のマンガを見てもうとうとして(笑) 芝村さんはどうだった？
練習の鬼！
開演前ずっとスケール練習！
確かに！開演5分前に芝村さんを楽屋に呼びにいったら、ずーっとスケール練習していて、一向に終わらないので音階どこまであるか「んー」と。キリの良いところでストップしようと扉の前で待ってたので、気づいたら1分前で集ったわ(笑)



とくながけいこ
徳永慶子
ヴァイオリニスト
元アタッカ・カルテット第2ヴァイオリンとして、2011年第7回大阪国際室内楽コンクール第1部門第1位受賞、2020年グラミー賞受賞。現在はソリストとして、ニューヨークを拠点に活動。ヴァイオリニストとしての体験を綴ったイラスト・コミックを自身のInstagramで公開している。
Instagram:@keikonomanga